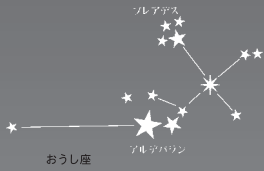


ポラリスを仰ぐ北の大地から



北極星

こくま座



夕張市にみる高齢者医療に学ぶ

空知医師会 会長 明円 亮

野村證券が発行しているHealthcare noteをご存知だろうか？

昨年11月号に、元夕張市立診療所・所長森田洋之氏の寄稿『夕張市の医療崩壊は、市民生活へどう影響したか？』が掲載されていた。要約すると、財政破綻し医療崩壊が起こった高齢化率48%の夕張市のデータを基に検証すると、意外なことに、夕張市の老人の死亡率に変化がなく、老衰による自然死が増加している。その結果、高齢者1人あたりの医療費の減少、救急車の出勤回数の減少、特養の看取り率が100%になるなど、医療崩壊とは言えない変化が起きていた。診療費や医療費が減ったかわりに介護費が増加しているが、医療費+介護費のトータルでみるとコストは減少している。医療費が減少した原因は、夕張に長期入院のベッドがなくなったこと、CT、MRIなど高価な医療機器がないのが大きい。

このままでは増え続ける医療費で国の財政が破綻する。そうなる前に、地域医療構想を成功させ、医療ニーズの低いベッド数を大幅に減らし、介護体制を充実させるコスト削減が急務である。高齢化社会にあった、病気や障害と上手につき合い、老衰を受け入れ、尊厳、自己決定権が尊重される「延命しない自然な看取り」があたりまえの社会の時代になって欲しいものだ。

赤川清介先生を偲ぶ

赤平市医師会 会長 郡 雅博

平成29年1月8日、赤平市医師会前会長の赤川清介先生がご逝去されました。

約3年間にわたる闘病生活でした。昨年11月の赤平市医師会理事会の時には、「来年の桜は見られそうだね」と話し合っていました。残念でした。

先生はあかびら市立病院に入院し、赤平市医師会の先生方に見守られながら人生の最後を送っていらっしゃいました。

私は赤川先生が亡くなられたとの連絡を受け、ご自宅に駆け付け久しぶりにお会いしました。やつれてはいましたが、何かほっとしたような、実に穏やかな表情の先生でした。先生は札幌医大13期卒ですが、すでに同期の先生が3名駆けつけておられました。

「13期はインターン闘争で春の国家試験をボイコットしたんだ」と、よく先生がおっしゃっていました。同期の先生とは年末から年始にかけて毎年旅行に出かけていて、3年前にもラスベガスへ行く約束をしていたそうです。赤川先生はその旅行中に友人に迷惑をかけたら困るとお考えになり、市立病院の院長に内視鏡をしてもらったところ、食道癌が見つかり、「僕は、今年には行けない」と連絡が入ったとのことでした。

先生はお酒が大好きでした。私達もずいぶん分ご馳走になりました。店を出るとき「ママちゃん、お願いね」と先生が手を振り、私たちは「ご馳走様でした」で終わりでした。

何もお返しできず誠に申し訳ありませんでした。

私が思うに、先生のことを悪く言う人は誰一人いません。本当にそう思います。廃院し闘病生活をしているときにも回復したら医師の足りない赤平だから、市立病院の手伝いに行くかなとおっしゃっていたので、私も期待しておりました。先生の後を引き継ぎ頑張っているつもりですが、十分な活動ができていません。でも先生のご期待にそえるよう頑張ります。

どうかゆっくりとお休みください。

